

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立鶴山小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまづき解消	学方向上担当と研究主任、各担任	① 学習のきまりや1単元時間の学習の進め方に関する共通理解 ② 全国・県学力結果の分析と活用 ③ 宿題の全員提出をめざす ④ PUT(放課後補充学習)の方法と内容、補充プリントの活用についての共通理解と実施 ⑤ 週末チャレンジの実施(5・6年)	① 年度当初、各学期末 ② 夏休みの研修、2学期初め ③ 毎日の地道な取組 ④ 4月に共通理解後、PUTは基本週1回のペースで実施中 ⑤ 毎週の地道な取組	① 研修の時間に共通理解 ② 全職員でつまづき傾向と対策を考えて日々の授業に生かす ③ 毎日の点検と励ましを欠かさず、隙間時間も使って全員提出をめざす ④ PUTの実施にあたっては、職員全員でかわり、力をつけるために「自分の力で、ていねいに、静かに」取組むことを徹底させる ⑤ 全員が提出し、間違いを直しきることをめざす	① 全児童が8割以上の項目にチェックができる(定着する) ② 解き直してつまづきをなくす ③ ほぼ全員が宿題を提出できる ④ 9割以上の児童がプリントを有効に活用して力を伸ばす ⑤ 8割以上が取組める
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	主幹教諭と生徒指導担当、各担任、PTA	① スマホに関するアンケートや講演会の実施 ② 家庭学習の充実に向けて、「家庭学習チャレンジ」(家庭学習、メディア視聴等の点検)の実施	① アンケートは6月実施 講演会は10月の参観日に実施 ② 「家庭学習チャレンジ」は、学期1回1週間実施	① スマホアンケートは、全児童に実施し、実態を把握して指導に生かす ② 講演会は5、6年と保護者対象に実施し、スマホの使い方等について考えるきっかけとする ③ 「家庭学習チャレンジ」は、学期に1回チャレンジシートを家庭に持ち帰り、1週間メディアの時間を1時間以内にして学習時間を確保するための意識付けを行う ・PTAと連携して実施・集計し、結果報告をPTA会長名で配布して家庭の協力を得る ・中道中ブロックの学方向上部会で結果を共有し、ブロック全体での連携を図る	① スマホを使用している児童の7割以上が使用時間を2時間以内におさえる ② 宿題プラス自主学習を毎日する児童が8割を超える

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】 全国(6年)	【学習状況調査の結果】
<p>○国語の標準スコアは全国と比べると低い。本校47.9(全国50) 昨年度の県学テの結果と比較すると結果は向上している。 領域別では「読むこと」や「話すこと・聞くこと」が下回っている。 (例)話し手の意図を捉えて自分の考えをまとめる : 正解率本校47.5%(全国67.4%) ○算数の標準スコアは全国と比べると低い。本校45.5(全国50) 昨年度の県学テの結果と比較すると結果は向上している。 領域別では「量と測定」、や「数量関係」が下回っている。 (例)示された除法の式の理解 : 正解率本校62.3%(全国75.8%) (例)2量の比較と倍の関係の理解 : 正解率本校62.3%(全国78.6%)</p> <p>県(3・4・5年) ○全国・県と比べて国語・算数ともに全ての学年で目標値を上回っている。</p>	<p>○家庭学習の時間(1時間以上)の割合が78.6%であり、全国平均(66.1%)に比べて高い。また、本校の昨年度の数値と比較しても増えている。 ○ノーマディア週間にスマホ・ゲーム・テレビ等の使用時間は1時間以内が守れた児童の割合は63.5%であった。 ○「家庭学習チャレンジ」の調査結果、メディア等の視聴時間1日1時間以内は学年が大きくなるにつれて守れていない傾向がある。 ○「自分にはよいところがある」と思っている児童は81.9%全国と比較して0.7%高い。 ○「読書が好き」な児童の割合は80.4%で、全国平均(75%)より高い。 ○読書時間については、1日当たり30分以上行う児童の割合は37.7%で、全国平均(39.8%)より低い。 ○読書時間が1日あたりゼロ「全くない」という児童の割合が19.7%で、全国平均(18.7%)より少し高い。</p>

成果 課題

○データベースを活用した補充学習等の成果があり、漢字の読みや書き取りについてはよくできている。今後も補充学習や朝学習の内容の充実を図りたい。
○秋チェックの結果を分析し、児童の苦手な分野を共通理解して指導し、全国学テや県学テの解き直しをすることで全学年前年度の結果を上回ることができた。
○日々の授業に落ち着いて取り組めていたり、積極的に週末課題(Tチャレ)に取り組めたりした成果であると考えている。
○全職員で調査問題を解いたり、調査結果を分析したりして、各学年で定着させておく内容(特に低学年で徹底指導しておくこと)や伸ばしたい力を共通理解した。
○岡山型学習指導スタンダードを意識して指導し、毎日の授業の中で「まとめ」「ふりかえり」を行うことで自分の考えを持ち、表現できる力が伸びた。

○昨年度から引き続き「書くこと」が苦手なところがあり、文章を要約したり、まとめる力が弱い。
○問題が長文になり情報量が多くなると重要な語句や重要な数値を見逃してしまったり、見つけられなかったりする児童が多い。
○メディアとのつきあい方や読書、あいさつ等に家庭での生活習慣に差が見られる。
○宿題をきちんとしている児童の割合が増えたが、自主学習に毎日取り組み児童が少ないのでこの割合を向上させたい。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
引き続き授業改善を行い、話し合い活動の充実や表現力の向上を目指す	年度内	すべての教科領域で深まりのある話し合い活動を意図的に行う。授業で「書く活動」を積極的に取り入れる。	校内研修で全員公開授業を行い、めざすべき授業について検証していく。全国学テの結果分析をもとに日々の授業での板書の構造化と各教科の見方・考え方を働かした問題解決学習を展開する。					
基礎基本の徹底	年度内	全国・県学力調査の基礎基本問題で、全国平均以上をめざす。	問題データベースを活用し、日々の授業の復習や宿題、補充学習に積極的に取り入れる。(漢字はつけい、算数一直線)全校で漢字検定に挑戦し、漢字学習に取り組む。低学年からげんぼくんプリントに計画的に取り組む。					
家庭学習の定着と充実	年度内	宿題提出率を向上させ、学ぶ楽しさを味わえる児童を増やす。	担任の日頃の声かけや学級通信・学級懇談で児童や保護者に呼びかけ、家庭学習の習慣を小学校低学年の段階で徹底する。また、自主学習を奨励し、日々取り組む児童の割合を増加させるようとする。					

※達成度 J: 目標を多く上回った(100%超) J/A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満) J/B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満) J/C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満) J/D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満) J/E: 目標を達成できなかった(30%未満)

小中連携の取組

○中道中ブロック「当たり前」の徹底(チャイムスタートの徹底、規律ある授業づくり、落ち着いて学習できる教室環境づくりに取り組む)
○中学校区で授業公開並びに児童生徒の情報交換を行い、今後の指導に生かす。
○中学校区定期テスト期間中にテレビやゲーム・スマホ等の使用制限の取り組み(ノーマディア週間)を行う。

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭学習について通信・懇談等で保護者に説明したり、児童により例を紹介したりして、主日の学習時間を増やす。
○ノーマディアの取り組みの協力を依頼するとともに、あわせて家庭学習時間調査を行い、学年に応じた家庭学習時間が習慣づくよう協力してもらう。
○読み聞かせ等の学校支援ボランティア事業で、学習・環境・安全支援で地域人材を活用し、活動を通して地域と学校をつなぐ地域の中の学校として子どもを育てていけるようにする。
○5・6年生の児童と全保護者を対象にスマホの望ましい使い方の講演会を講師を招いて行う。